

千葉市立病院改革プラン（第4期）における目指すべき病院像（海浜病院）

1 現状分析

- **海浜病院の強み**
 - ・ **周産期医療**
「地域周産期母子医療センター」として、新生児集中治療室（NICU）を整備し、超低出生体重児やハイリスク妊娠への対応を図るなど、高度な周産期医療を提供。
 - ・ **小児医療**
「地域小児科センター」として、年間 15,000 件弱の救急疾患対応を医師会医と協働、平成 27 年 10 月より救急トリアージ、外因系小児の受け入れ、更には夜間 2 次救急の 365 日受入れを平成 28 年 6 月から開始したほか、従来の耳鼻科手術に加えて、新たに小児外科手術を開始するなど、市内小児急性期医療の拠点として機能。
- **外部環境の変化**
 - ・ 高齢出産や体外受精の増による低出生体重児の増加。
（低出生体重児の割合 H2：6.3% → H12：8.6%、→ H24：9.6%）
 - ・ 核家族又は 1 人親の増に伴う夜間小児救急患者の増（H26：13,981 人 → H27：14,645 人）
 - ・ 高齢化の進展
65 歳以上人口 花見川区 H25.3：41,887 人 → H28.3：46,536 人
美浜区 H25.3：31,173 人 → H28.3：36,050 人

2 課題

- ・ **周産期・小児医療の更なる充実**
周産期医療では、NICU稼働率が慢性的に 100%であり、ニーズに対して不足しているほか、小児医療では、外科系の強化に余地があるなど、更なる充実が必要。
- ・ **心臓血管外科の手術中止の影響からの回復**
平成 27 年 7 月から心臓血管外科の手術を停止して以降、減少している入院患者数の回復が必要。
- ・ **地域医療に必要な外科系診療科の整備**
現状では、総合病院として市民に求められる地域医療を提供するには、外科系診療科が不足しており、総合的な診療体制の整備が必要。

4 収支見込み

(単位:百万円、税込)									
	H25	H26	H27	H32		H25	H26	H27	H32
	実績	実績	実績	計画		実績	実績	実績	計画
病床稼働率	67.5%	72.9%	69.7%	78.1%	医業収益	6,405	6,958	6,835	8,370
延入院患者数	74,145	76,369	73,190	85,188	入院収益	4,753	5,209	4,888	5,969
新規入院患者数	6,696	7,415	7,427	7,655	外来収益	1,513	1,602	1,797	2,255
入院診療単価	64,104	68,206	66,786	70,071	医業費用	7,912	8,499	8,695	10,533
外来患者数	139,482	145,798	148,151	169,084	医業収支	▲ 1,507	▲ 1,541	▲ 1,860	▲ 2,163
外来単価	10,844	10,990	12,127	13,336	経常収支	▲ 296	▲ 288	▲ 368	226
医業収支比率	81.0%	81.9%	78.6%	79.5%	純損益	▲ 321	▲ 805	▲ 484	188

※ 上記の値は、一定の条件に基づいて算定した現時点での推計値である。
今後、人員や医療機器の計画を反映する予定であることから、数値は変動する可能性がある。

3 目指すべき病院像

周産期医療の充実

- ・ NICUを増床し、リスクの高い妊産婦や新生児への対応を強化。
- ・ 将来的に、総合周産期母子医療センター※1の指定も視野に入れた診療体制の強化。

小児医療の充実

- ・ 救急疾患から一般診療、専門治療まで幅広い診療に対応
- ・ 外科系診療科（小児外科など）の整備強化
- ・ ジェネラルマインドをもった医師の育成

高齢者医療の充実

- ・ 心臓血管外科の手術中止の影響を受けて減少している高齢者の入院患者の回復
- ・ 社会的信用回復を一歩ずつ進める
- ・ 地域医療に必要な外科系診療科を整備（脳神経外科、泌尿器科、整形外科、形成外科）

成育医療への取り組み

- ・ 胎児から小児・思春期を経て成人に至り、次世代を出産するまでの過程において、連続的・総合的な対応を図る。
例：小児疾患を抱えた成人患者、先天性心臓病を持った妊婦の出産 等

※1 母体及び新生児に対する極めて高度な医療を提供する医療機関に対して、都道府県が指定する。
千葉県内では、亀田総合病院、八千代医療センターの2か所が指定。
指定のためには、新生児集中治療室（NICU）や、母体・胎児集中治療管理室（MFICU）の一定数の整備が必要。

5 収支向上の取り組み

- **周産期医療の充実（入院収益：+305 百万円）**
 - ・ リスクの高い妊産婦や新生児への対応を強化するためNICUを整備。
（平成 28 年 6 月～：+3 床、平成 29 年度～：+6 床）
- **小児医療の充実（入院収益：+348 百万円）**
 - ・ 夜間 2 次救急の 365 日受け入れを継続するほか、現行の外科病棟の一部を第二小児病棟に転換し、小児科、形成外科、小児外科診療に対応。
- **高齢者医療の充実（入院収益：+429 百万円）**
 - ・ 総合病院として、地域医療に必要な診療体制を構築する。とくに、救急医療にも必要な外科系診療科（脳神経外科・泌尿器科・整形外科・形成外科）を整備。

対H27年度
医業収益
+1,535 百万円
・ 入院収益
+1,082 百万円
・ 外来収益
+458 百万円